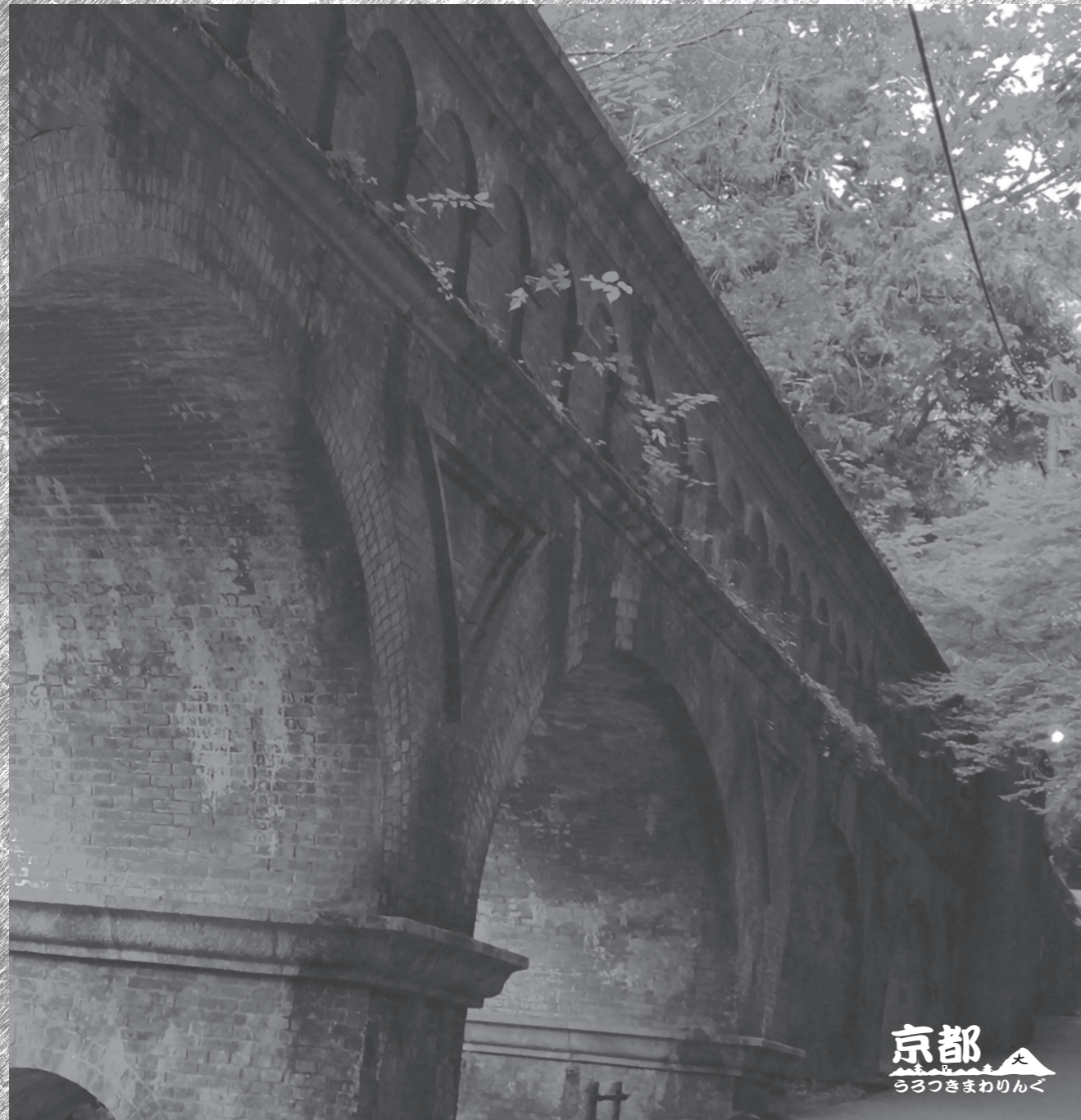


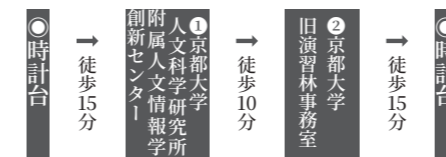
見落としていたものを拾いに、少し歩いてみる——

うだるような暑さが和らぎ、秋の足音が聞こえはじめる今日この頃。どこか寂しい気持ちになってしまいますよね。そんな秋こそ、最後の晴れ姿と艶やかに粧いはじめる街を歩いてみませんか。確かに知っていたはずの場所でも、見方を変えれば意外な景色が眠っているもの。40n (n = 1, 3, 5) 分のお散歩コースを3つピックアップしました。(でこぼん)



京都
らるつきまわりんぐ

お昼休みや空きコマ、そこまで時間はないけどパッとリフレッシュしたいかも。そんなときにおすすめなのが、北部構内から北白川の散策。人が多いわけでもなく、ゆっくり木々や壮麗な建築の間を歩けます。



所要時間
40分
歩行距離
3 km

北部北白川 コース

北白川・風流な建築

志賀越道から白川疎水を越えて北白川へ。和洋折衷の豪邸が並ぶ通りは、歩いているだけでも少し気分が上がる。なんでも、かつては京大の教授の邸宅が並んでいたとか……。そんな中でも一際目を惹くのが、附属人文情報学創新センターの建物だ。京大のシンボル時計台を設計した武田五一による設計で、登録有形文化財にも指定されている。西洋風の建物と、南国の植物が織りなす光景は、なんだか異世界に繋がってしまったかのような気がしてワクワクする。



▲美しい玄関。時計台と同じく夜もキレイ。



▲京都ではなかなか見ないソテツやヤシが見られるお庭。



▲時計台でおなじみの武田五一設計。平日は入館も可能だ。HPの開館日カレンダーを確認しよう。

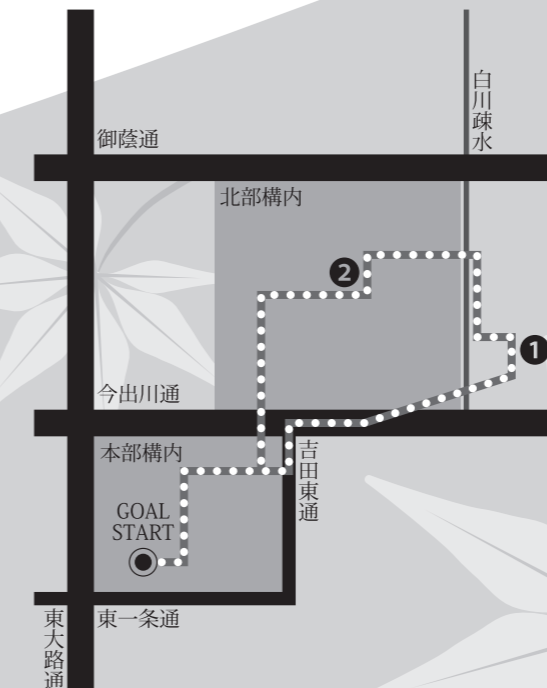
北部・木々の間で一休み

もはや歩く気分でもない、というときに少しのんびりできる場所が、北部構内にある旧演習林事務室だ。バンガローのような建物の中にはラウンジがあり、一息つくのにもってこいのスポットとなっている。

実はこの旧演習林事務室は、先ほど出てきた武田五一の門下生の一人、大倉三郎によって設計されたもの。これも国の有形文化財に登録されている。見慣れた建物でも、少し調べてみると意外な真相が見えてくるかも。



▲趣のある玄関、周りの木々やベランダからの眺めも良い。



はみだし
すてーじ

【編集部員紹介】胡桃：農学部2年生。方向音痴なクロスワードライター、ときどき天然記念物。困ったことがあれば持ち前の明るさで全て解決する。

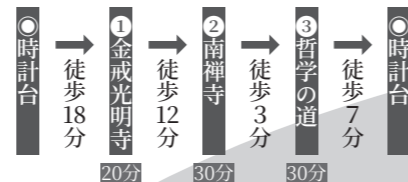
(方向音痴はご愛嬌)

40n分、粧う京都 イガイナケシキ

南をまわる コース

これまで選ぶことのなかった、もしくはその選択肢すらないほどに見落としていた道へと一歩踏み出す旅。このコースを踏破するというより、このコースを参考に自分が気になった道を選んで歩いていくことが大事。

所要時間
120分
歩行距離
8 km



金戒光明寺・階上

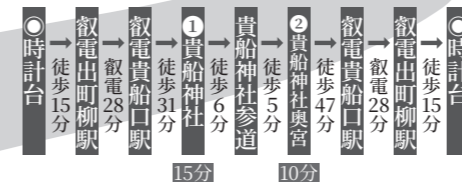
奈良時代の学者吉備真備ゆかりの吉備観音をはじめ、多数の見どころがある黒谷金戒光明寺。

その中でも特に、文殊塔前から望む景色は格別だ。本堂を越え蓮池を越え、さらにその奥にある階段を上り詰めた先にある文殊塔。124段の苦難を超えた先に、市内が一望できるご褒美タイムが待っている。夕暮れ時に訪れると、夕焼けに染まる街と紅葉が織りなす光景に、ただ言葉が失い、時間の流れすら忘れる。

文殊塔への階段を上る道中にある五劫思惟阿弥陀仏像も、とても愛らしい姿をしているので見てほしい。

秋季限定でライトアップされた「もみじのトンネル」を通り抜ける叡山電車、行先は貴船神社。せっかくなら「もみじのトンネル」を眺めるポジションにもこだわってみたいところ。さあ、ぜひ貴船へ行きましょう。

所要時間
200分
歩行距離
8.5km



貴船・燃える紅葉

貴船口駅のホーム、叡電から下車した時点で、貴船の紅葉ライトアップは始まっている。駅を出てすぐのもみじさえ、見惚れてしまって15分が容易に溶ける。

市内より格段に冷え込んだ貴船では、灯籠の明かりにも松明の炎にも、確かな温もりを感じる。真っ赤なもみじは温かな光にゆらゆらと照らされて、それは燃えているようだ。冷え込みは始める貴船でしか感じ得ない紅葉と光の共演を、心ゆくまで楽しみに行くよう。



▲叡電貴船口駅を出てすぐ、人を虜にして離さないもみじ。



▲道路沿いに道しるべとして設置された灯りは、もみじも照らす風流なものに。



▲灯籠の温かな灯りに包まれ、さらに赤みが増したように見えるもみじと貴船神社参道。

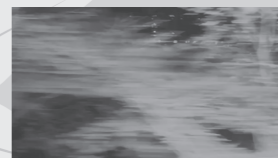
叡山電車の最後尾で行こう

紅葉シーズンの叡山電車は混む。特に、市原駅から二ノ瀬駅の間で行なわれる「もみじのトンネル」ライトアップは、毎度駅に長蛇の列ができるほど人気だ。それが展望列車きららでの走行となれば、時に列の長さは倍にもなる。

しかし、「もみじのトンネル」をいちばん楽しめるのは、車両を問わず最後尾である。最後尾の運転席から見る赤と黄の乱舞が、きららの広い窓で見るものより映える（個人の意見です）。



▲展望列車きららは側面に大きな展望窓が。



▲車両側面から臨む景色。後方へと素早く景色が変わっていく。



▲車両後方を臨む景色。ライトアップを満喫するならここがいちばん。

最後尾のほうが綺麗に見えるとはいえ、座席でゆっくり見たいならやはりきららがおすすめ！
時刻表はHPを確認しよう



(工・院 カビバラ)

(アクセス面なら生協ショップがリード？ 生協ショップもぜひご訪問に！；編)

南禅寺・お山

多くの人が一度は南禅寺を訪れ、水路閣の連続したアーチの中で写真を撮る。しかし、水路閣の裏側を覗き込み、どんどん奥へと続いていく坂道を辿っていった人はほぼいないだろう。

水路閣裏の坂道はいずれ山へと繋がる。南禅寺から最勝院、最勝院奥宮、駒ヶ瀧へと足を進めるごとに深まってゆく木々。近くを流れる水流や、風がさらう葉のさざめき、羽虫の鳴き声に耳をすませると、体いっばいに緑が満ちていく気がする。

哲学の道・猫

南禅寺側から入る哲学の道には、自分の足音だけが響く……かと思いきや、「フニャア」猫の鳴き声。猫を追って視線を変えてみると、意外な発見がある。

▼何かを見つめる猫。近寄るも逃げない。

